

東北発コンパクトシティのすすめ



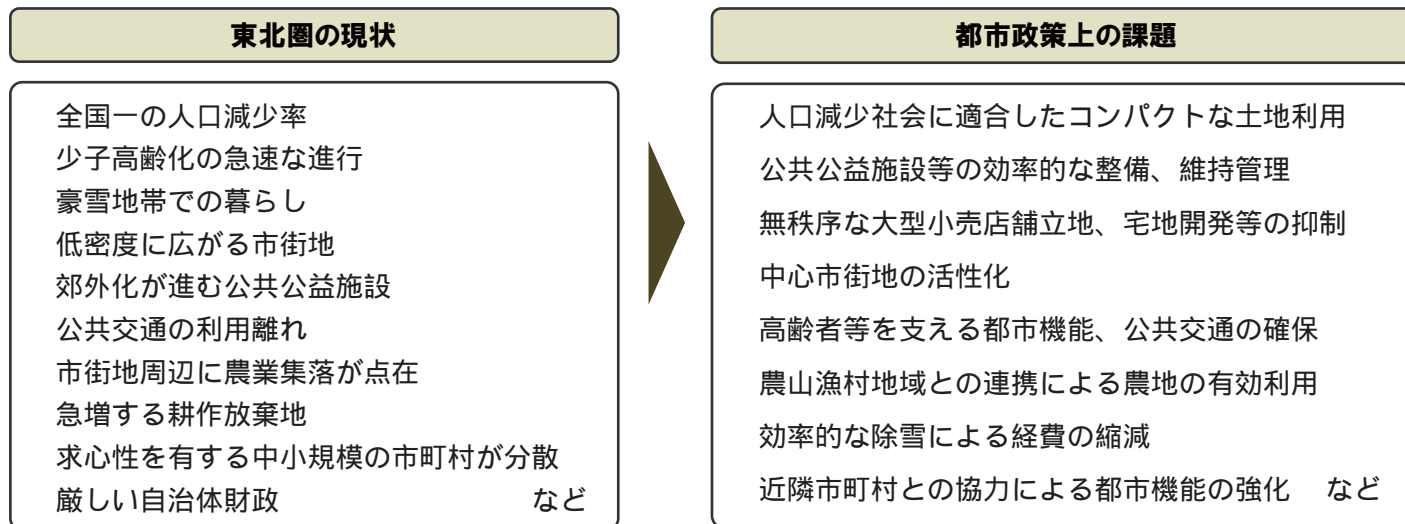
1. 東北発コンパクトシティ

持続可能な社会に向けて

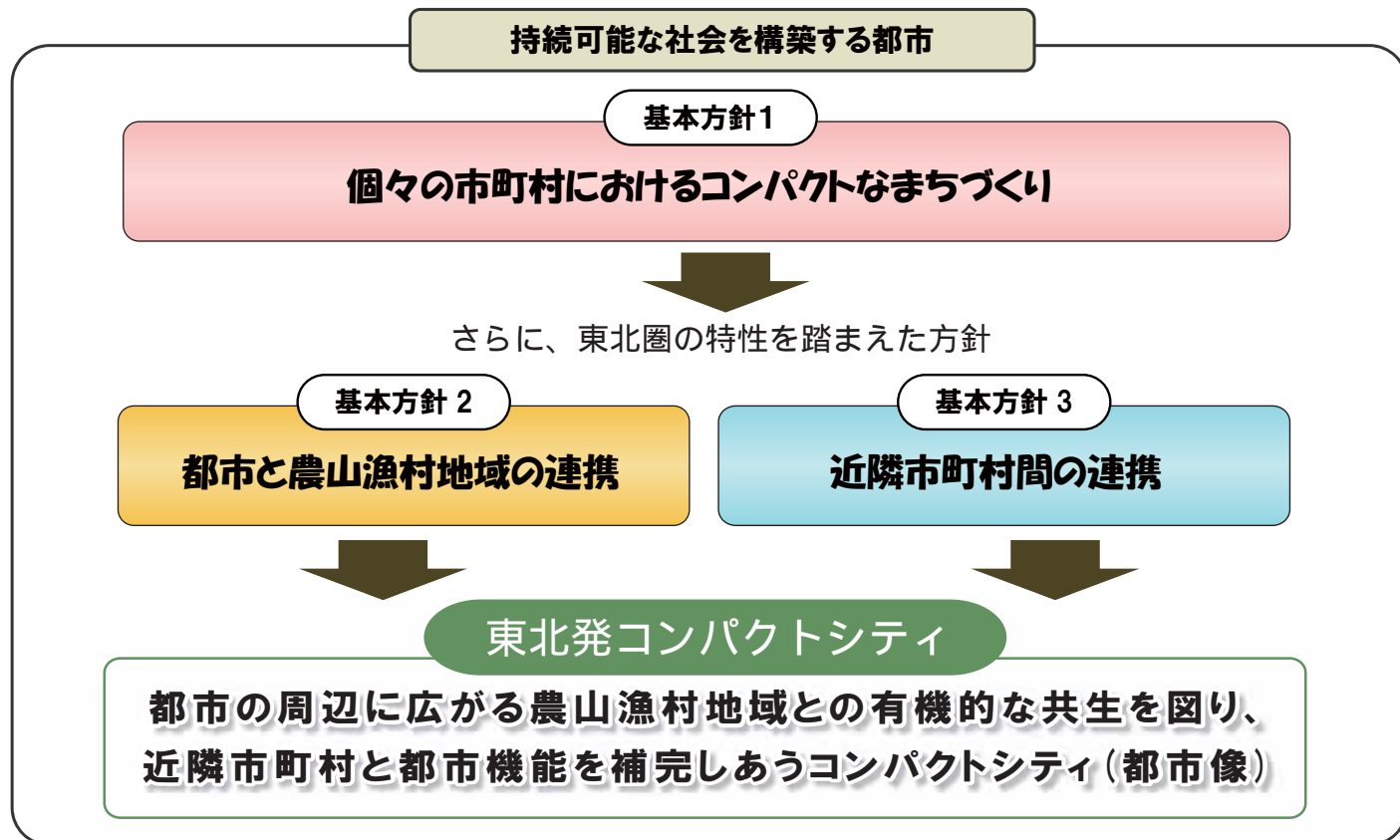
人口減少や少子高齢化など刻々と変化する社会経済潮流のなか、社会・環境・経済などのバランスを保ちながら、より効率的で持続可能な社会を構築していくことが重要となります。

そのため、都市政策においてはこれまでの右肩上がりの成長を前提とした拡大型のまちづくりを見直し、コンパクトなまちづくりへの転換が必要となります。

中小規模の市町村などすべての市町村が取り組むことができる、東北圏の特性に配慮した「東北発コンパクトシティ」を発信し、実現させていくことが必要です。



持続可能な社会を構築するため
コンパクトなまちづくりへの転換が必要

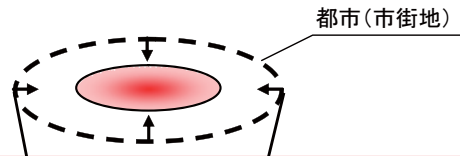




東北発コンパクトシティのイメージ

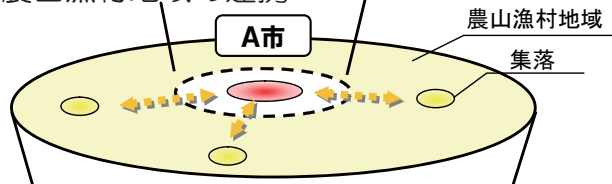
概念図

基本方針 1：個々の市町村におけるコンパクトなまちづくり



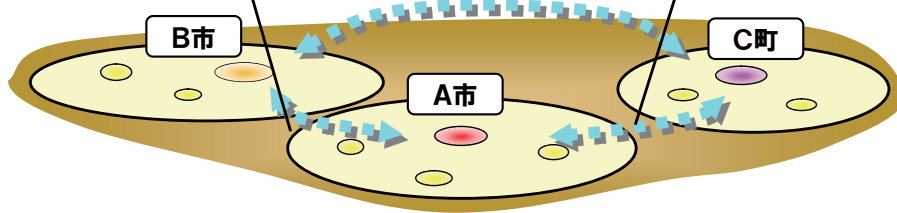
※市町村によっては市街地が複数ある場合もあります。

基本方針 2：都市と農山漁村地域の連携



※市町村によっては農山漁村地域がない場合もあります。

基本方針 3：近隣市町村間の連携



イメージ図

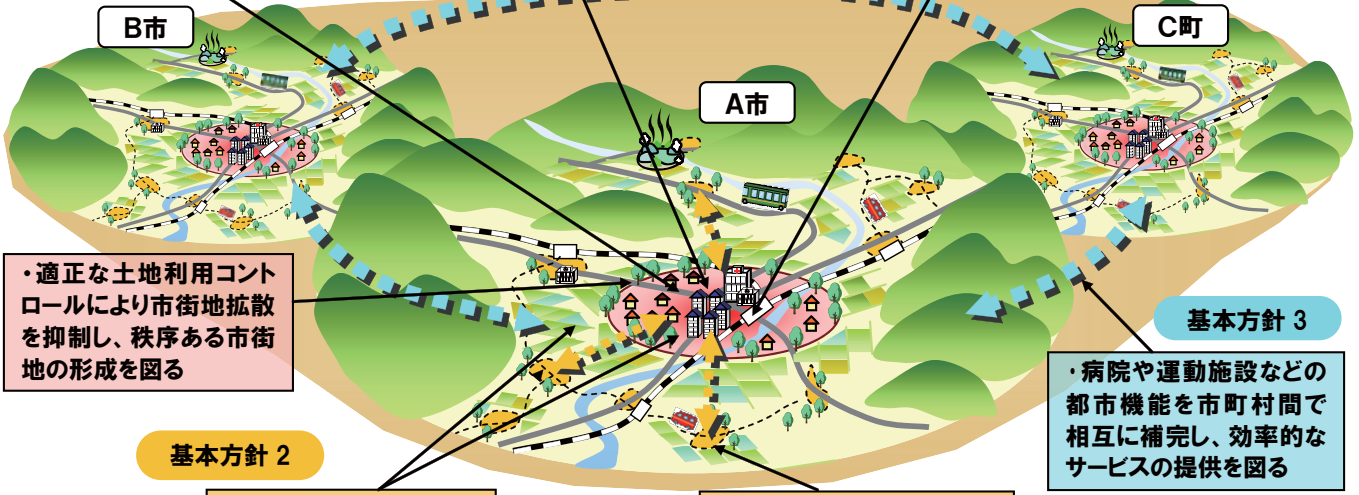
凡例	
	市街地
	集落
	農地
	広域幹線道路
	幹線道路
	市町村道
	鉄道

基本方針 1

・街なかに住みよい環境を創出し、多様な世代の居住ニーズに対応したサービスの提供を図る

・公共公益施設の計画的な誘導や既存ストックの有効活用などを行い、中心市街地の活性化を図る

・雪にも強い快適な移動を確保し、歩いて暮らせるまちの形成を図る



・適正な土地利用コントロールにより市街地拡散を抑制し、秩序ある市街地の形成を図る

基本方針 2

・都市住民や企業等との連携、交流により新たな担い手を確保し、農地の保全及び利活用を図る

・集落の協働による地域づくりや交通手段の確保等により生活環境の保全や生活利便性の確保を図る

基本方針 3

・病院や運動施設などの都市機能を市町村間で相互に補完し、効率的なサービスの提供を図る

2. 実現に向けた取り組み

東北発コンパクトシティの考え方

「東北発コンパクトシティ」は、持続可能な社会を構築するため、東北圏の特性を踏まえた都市像であり、東北圏のすべての市町村が目指すことが求められます。

東北発コンパクトシティの考え方は、東北圏に広く分布する中小規模の市町村が取り組むことを想定したのですが、県庁所在地のような規模の大きい市町村でも十分活用できるものです。

基本方針1 個々の市町村におけるコンパクトなまちづくり

それぞれの市町村が、東北圏の伝統文化や地域性豊かな景観などを活かしながら、市街地の計画的な土地利用のコントロールと適正な都市機能の配置により、魅力的かつ利便性の高い空間を創出する。

- ・ 中心部では、快適な移動の確保に合わせて、段階的に都市機能の強化を進め、多様な生活ニーズに対応できる都市空間の形成を図る。
- ・ 郊外部では、市街地の無秩序な拡散を抑制するとともに、土地や建物を有効に活用しながら、ゆとりある居住空間への再生を図る。

基本方針2 都市と農山漁村地域の連携

都市と農山漁村地域の相互において土地利用の整合を図り、水・緑豊かな環境に囲まれた市街地を形成する。

- ・ 豊かな自然や農地を担う農山漁村地域の集落を支えるため、市街地と集落を結ぶ交通ネットワークの強化や経済循環の活性化を図る。
- ・ 農山漁村地域の固有の行事や祭り、グリーンツーリズムなどによる交流を深め、多様な主体の参画により優良な農地や自然の保全及び有効活用を図る。

基本方針3 近隣市町村間の連携

基礎的な都市機能を強化しつつ、より高次な都市機能については近隣市町村と補完し合うことで、効率的にサービスを提供する。

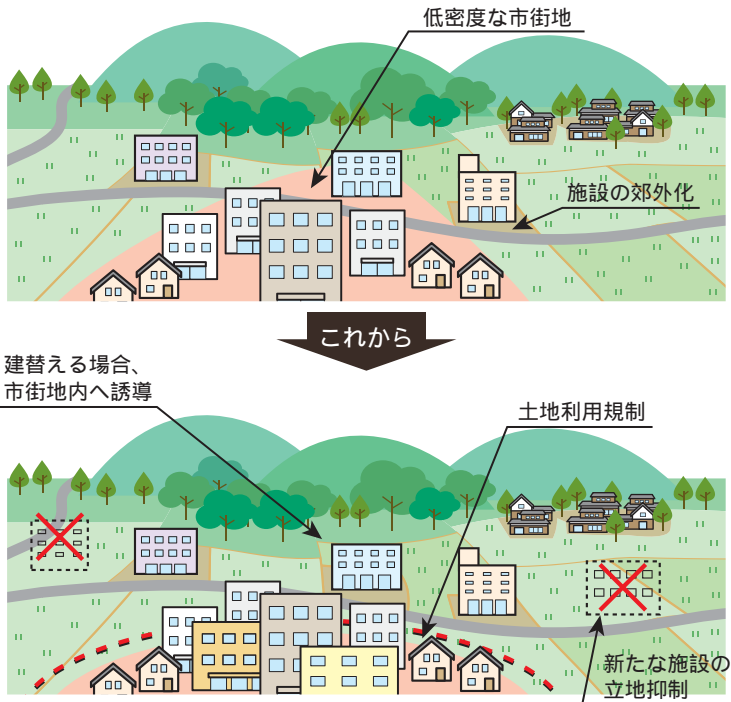
- ・ 近隣市町村間における都市機能の分担・連携を促進するため、広域的な土地利用と交通ネットワークの構築を図る。

基本方針 1

個々の市町村におけるコンパクトなまちづくり

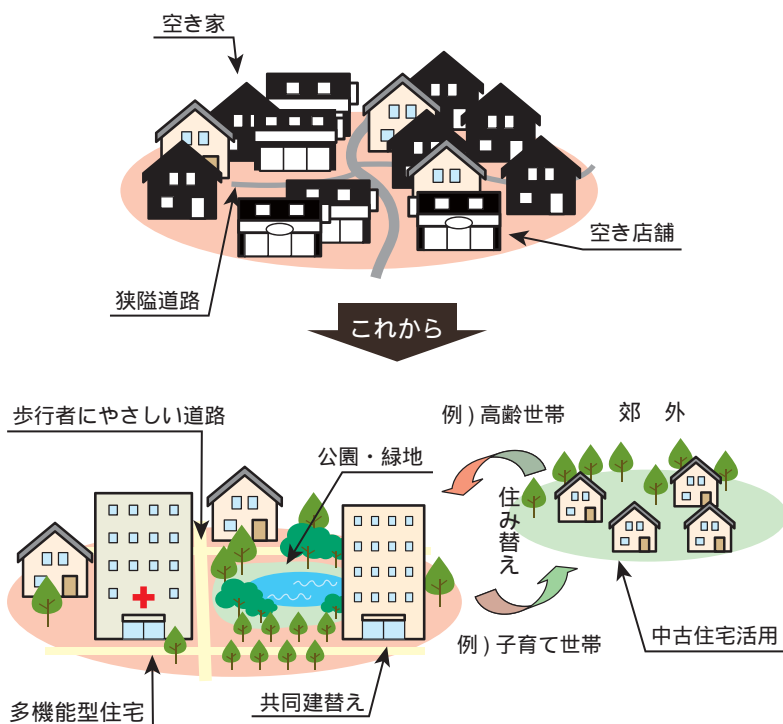
1) 秩序ある市街地の形成

地域の実態を踏まえた土地利用コントロール



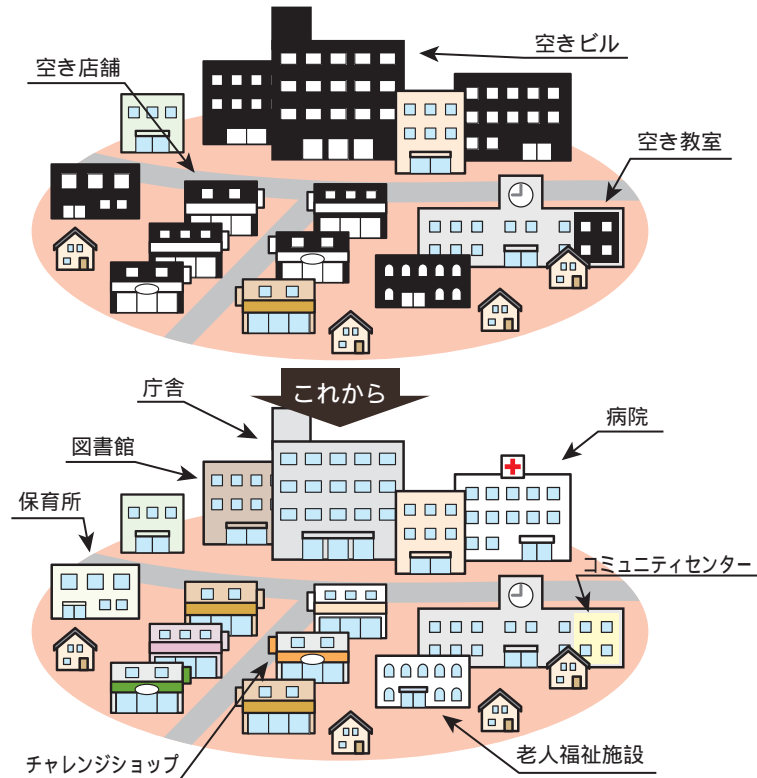
2) 街なか居住の推進

良質な居住環境や住宅の形成

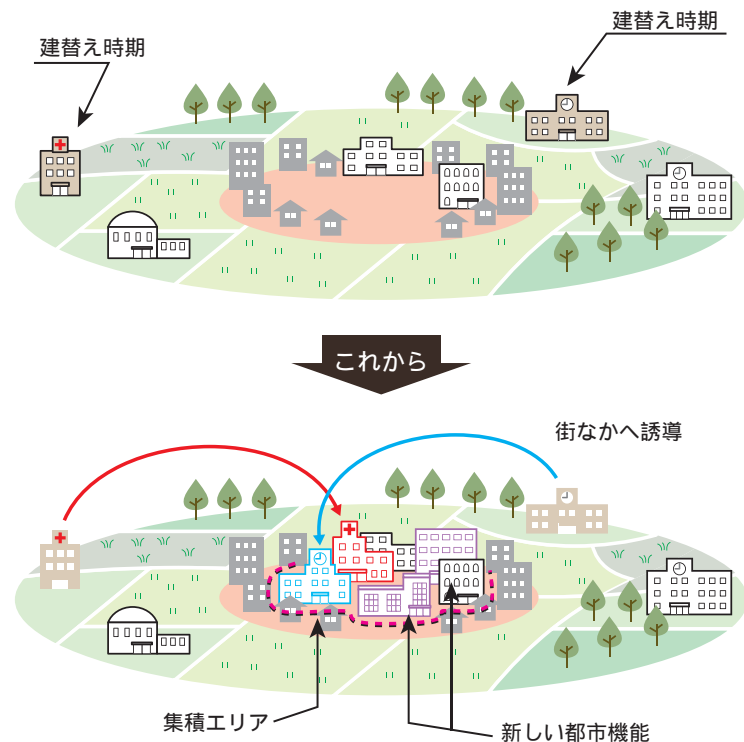


3) 街なかの都市機能の強化

既存ストックの有効活用による機能の強化

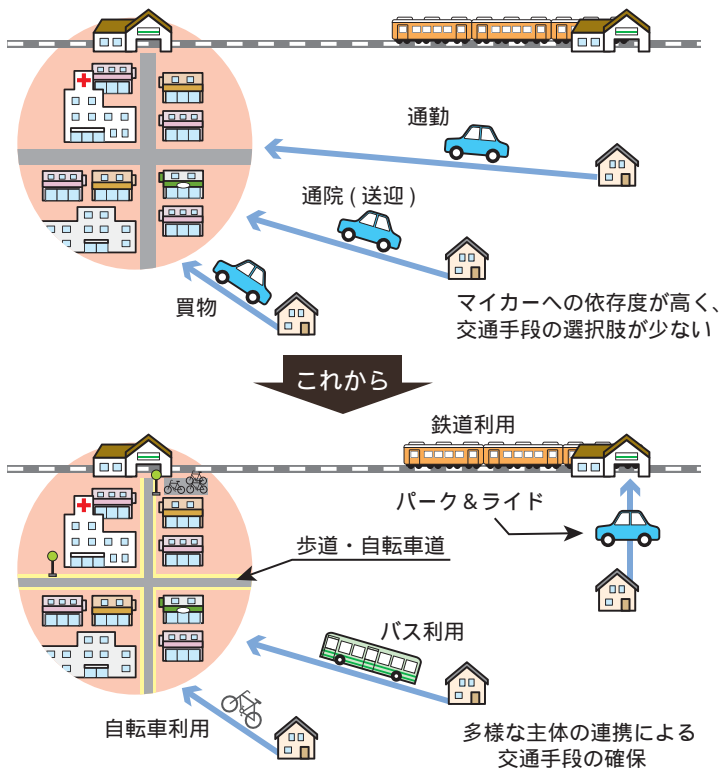


公共公益施設等の計画的な立地誘導

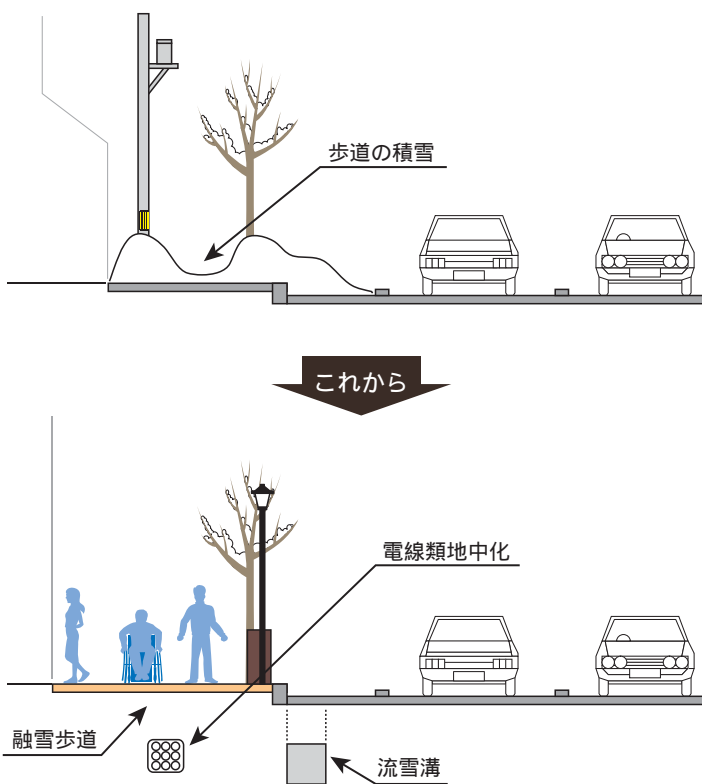


4) 市街地の快適な移動の確保

多様な主体による快適な交通手段の確保

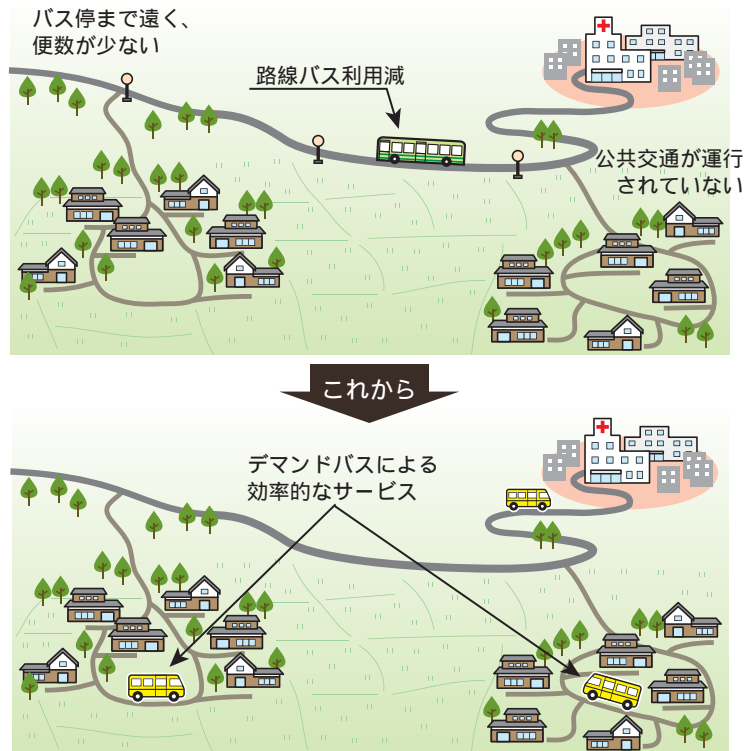


安全で雪にも強い歩行空間の形成

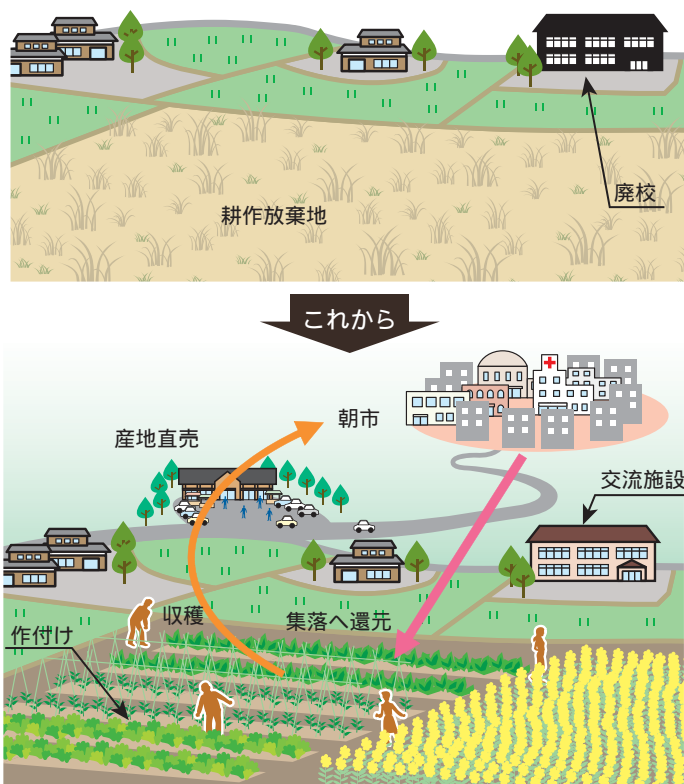


5) 農地を守る集落機能の強化

利便性が高く、効率的な交通手段の確保

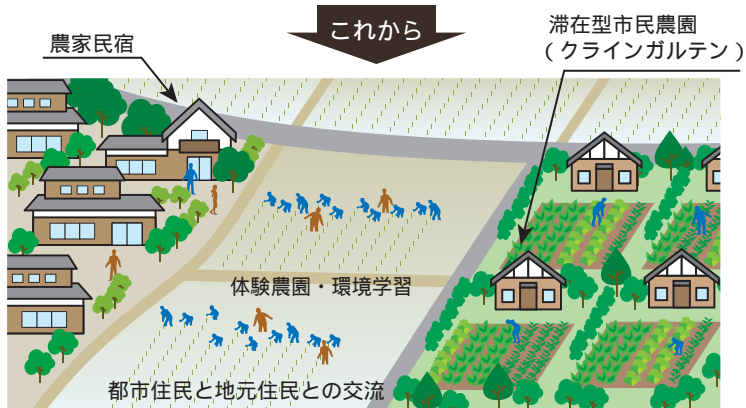
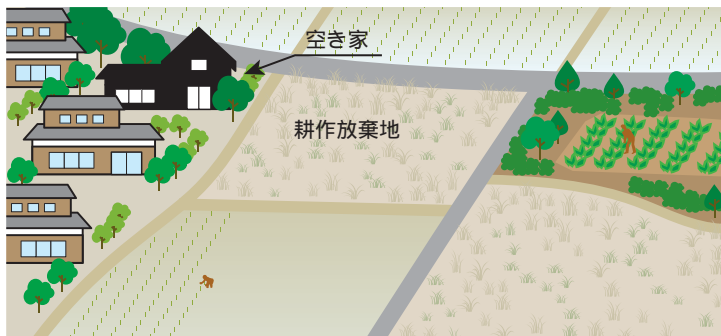


地域資源の活用による集落機能の強化

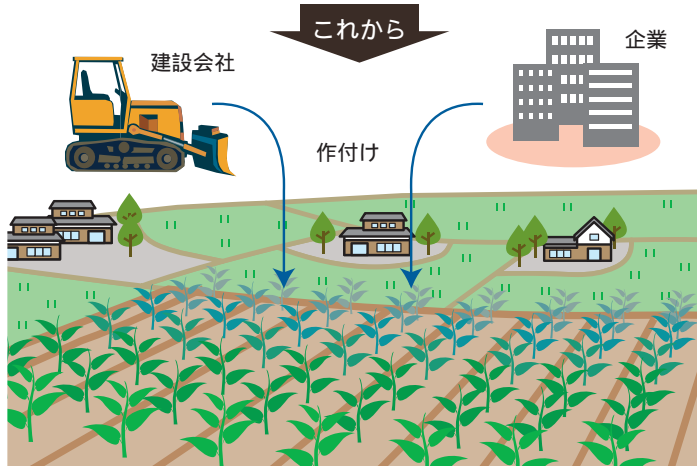
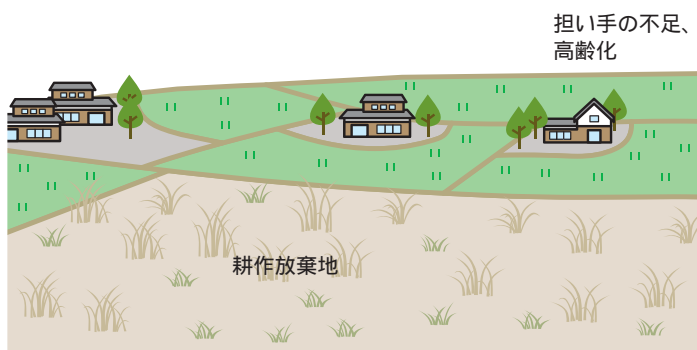


6) 多様な主体による農地の有効利用

都市住民等との交流を促す農地の活用



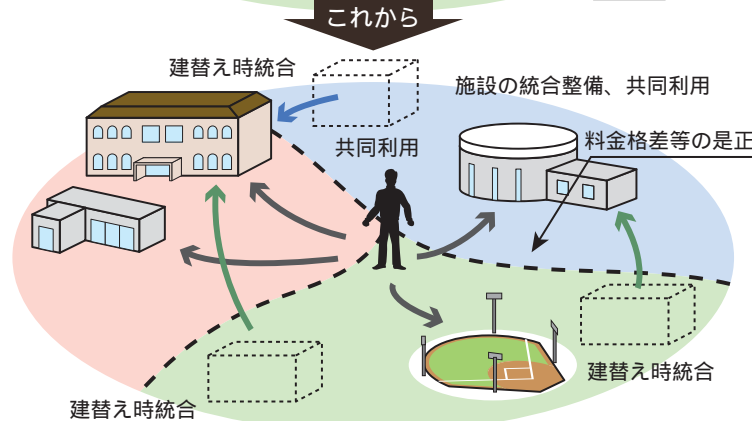
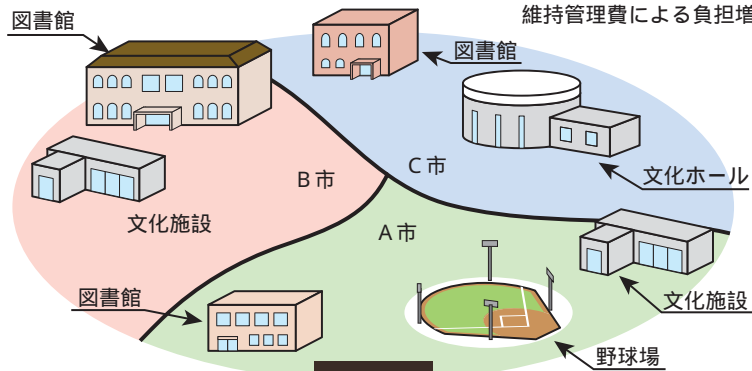
農業への参入機会の創出



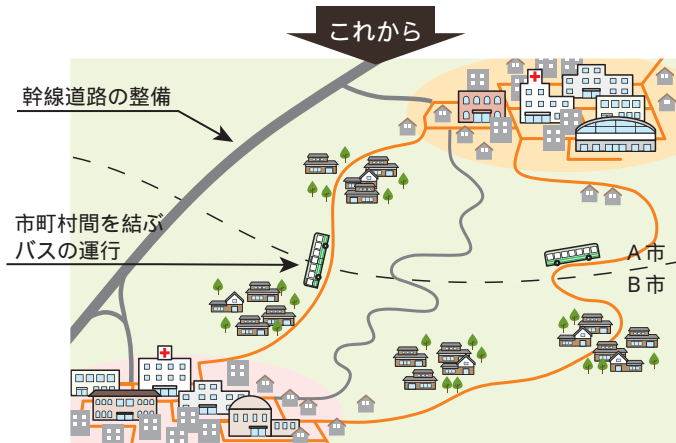
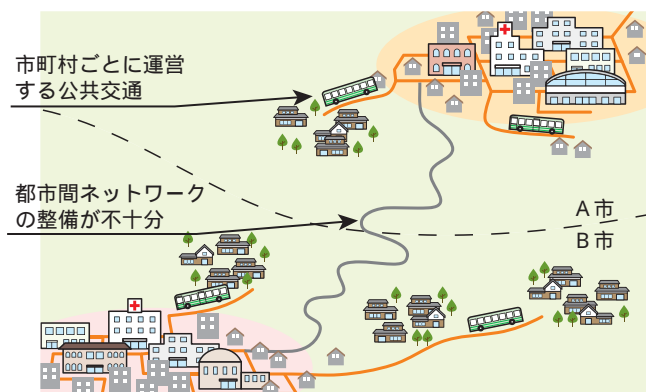
7) 都市機能の相互補完

公共公益施設等の相互利用

市町村ごとに施設を完備、維持管理費による負担増



広域交通ネットワークの強化



3. 取り組みの進め方

取り組みの進め方のイメージ

東北発コンパクトシティの実現に向けては、住民や市町村、県・国などがそれぞれの役割を認識し、多様な主体が連携して取り組みを進めていくことが必要です。

それぞれの主体が理解を深め、各市町村の都市像を共有し、取り組みの熟度に応じて一步一步進め、小さな成功を積み重ねていくことが必要です。

